

2023年7月12日(水)
文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」2023

高等学校における日本語指導・体制整備に関する研修
第2回オンライン研修

「個別の指導計画」の作成

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育ユニット 齋藤ひろみ



1 教育課程の編成

『高等学校における外国
人生徒等の受入れの手
引』 p.42～

『高等学校の日本語指導・学
習支援のための
ガイドライン』 p.9～

教育課程上に

「特別の教育課程」として日本語指導を位置付ける

(1) 選択科目の時間に別室で「日本語指導」を実施する。

例) 国語科「論理国語」の時間に別室で「日本語指導」(2単位)

数学科「数学A」の時間に、別室で「日本語指導」(2単位)

→ 教育課程の一部に替える場合

(2) 課外の時間に「日本語指導」を実施する。

例) 週4回 授業開始前の25分(0時間目)に「日本語指導」(2単位)

週2回 放課後に50分(7時間目)に「日本語指導」(2単位)

入学直後と夏休みに計35時間 「日本語指導」(1単位)

毎週土曜日に「日本語指導」2時間 (2単位)

日本語学習等に関わる学校設定教科・科目の開設

生徒や学校、地域の実態及び学科の特色に応じて特色ある教育課程を編成するために教科・科目を設定(高等学校指導要領 総則第2款 3(1)エ及びオ)

- 例) 教科:日本語 科目:日本語Ⅰ(2)、日本語Ⅱ(2)
- 教科:言語活用 科目:日本語Ⅰ(2)、Ⅱ(2)、Ⅲ(2)
- 教科:国際 科目:日本語入門Ⅰ(5)、Ⅱ(4)、Ⅲ(2)
- 教科:国語科 科目:日本文化研究(2)
- 教科:スポーツカルチャー 科目:言語研究(6)
- 教科:キャリアデザイン 科目:日本事情(2) 日本探究(2)

身に付けてきた言語・文化を生かした交流活動や社会貢献活動を行う学習活動
地域社会における自己実現のための情報活用力や問題解決力を育む学習活動

事例 日本語指導の課程上の位置づけ

『手引』

- ・川崎市立川崎高等学校 p.44－45
- ・私立敬和学園高等学校 p.47
- ・定時制課程・普通科高等学校 p.50

『ガイドライン』 p.61～63

- ・神奈川県立座間総合高等学校(7月27日研修で報告)
- ・散在地域 定時制高等学校

履修計画例

散在地域 定時制高等学校(三部制) (『ガイドライン』p.63)

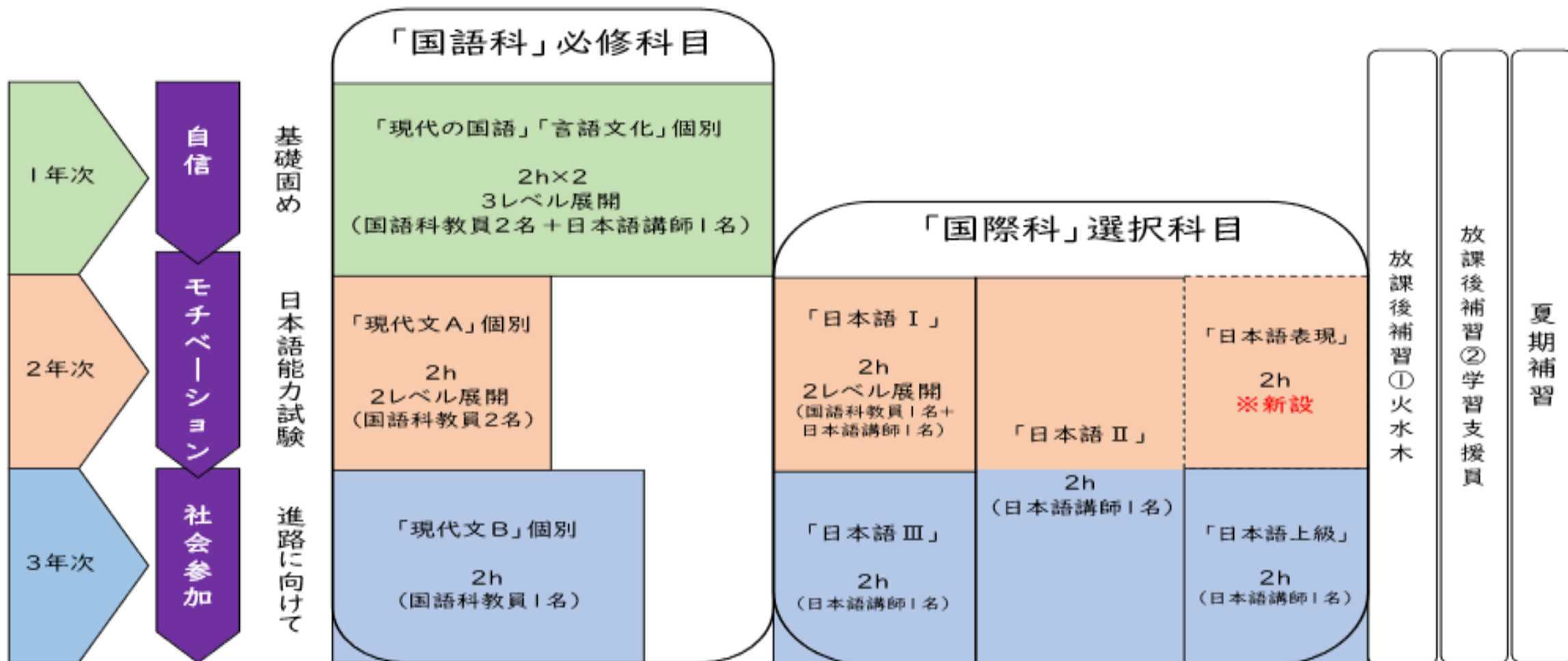
令和5年度新入生の科目履修計画(4年で卒業)


1年次(19単位)	2年次(19単位)	3年次(19単位)	4年次(19単位)
コミュニケーション英語 (前)(2) 体育①(2) 美術1(2) LHR(総合的な探究)(1) 家庭総合(前)(2)	コミュニケーション英語(後)(2) 数学 I (前)(2)、 体育②(2) LHR(総合的な探究)(1) 現代の国語(2) 歴史総合(2) 化学基礎(2)、 家庭総合(後)(2)	情報 I (2) 体育③(2) 数学 I (後)(2) LHR(総合的な探究)(1) 言語文化(2) 公共(2) 科学と人間生活(2) + 選択科目4単位	体育④(2) LHR(総合的な探究)(1) 保健(2) 地理総合(2) + 選択科目(10単位)
日本語 I (8) 数学入門(2)	日本語 II (4)	日本語 III (2)	社会生活基礎(2)

()内:単位数、赤字:外国人生徒等のために開講する授業、下段:学校設定科目

日本語指導・教科(取り出し／習熟度別)の配置例 神奈川県立座間総合高等学校の例(『ガイドライン』p.61)

< 3年間の目標と日本語指導の実施科目・時間 > ←





2 「個別の指導計画」

『高等学校における外国人生徒等の受入れの手引』 p.46～

『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』 p.9～

<「個別の指導計画」と履修計画>

個別の指導計画:日本語指導のみならず、外国人生徒等を対象とした日本語関連の教科・科目(学校設定教科・科目)、教科学習支援、またキャリア教育・多文化共生に関する取組等、指導・支援の全体について作成する。

		外国人生徒等への支援・指導
履修計画	個別の指導計画	「特別の教育課程」による日本語の取り出し指導・放課後などの日本語指導
		外国人生徒等を対象にした日本語等に関する学校設定科目教科の取り出し指導・教科の授業への入り込み指導
		進路指導・キャリア教育、母語母文化教育、多文化共生・社会活動参加への支援
		教科等の授業

履修計画:在籍期間に対象生徒が、いつ、どの科目を履修するのかを計画する。日本語指導の時間を履修計画に配置し、教科と日本語学習を関連づける。「特別の教育課程の日本語指導」で代替する科目名と単位数を明示的に示す。

「個別の指導計画」様式案 (『手引』p.48)

個別の指導計画										
記入日					日本語指導計画					
記入者					学年	1年次			2年	
日本語の学習歴 (入学まで)	○年～○年 場所、期間、頻度、内容等				課程 特別の教育	日本語プログラムB				
	○年～○年					日本語プログラムD				
	○年～○年					放課後補習				
日本語の能力 (1年次)	聞くこと□ (やりとり□ 発表□) 定期的は別に				科・科目	言語と文化Ⅰ～Ⅱ				
	話すこと□					地域社会とキャリアⅠ～Ⅱ				
				生活適応とコミュニケーションのための日本語		学習に参加し思考のための日本語				
日本語の到達目標										
全体の目標		3側面の日本語								
4年次										
3年次										
2年次										
1年次										
日本語指導計画										
学年	1年次			2年次			3年次			
課 特	日本語プログラムB									
その他	キャリア支援									
	母語・母文化									
	多文化共生									

日本語指導(「特別の教育課程」としての)の他

- ・学校設定教科・科目による日本語等の指導
- ・教科学習支援(取り出し指導・入り込み指導)
- ・キャリア支援・母語・母文化活動、多文化共生のための活動

※修了までの履修計画と合わせて計画

例)個別の指導計画「指導内容」 (『手引』p.49 一部変更)

1 対象の生徒について

- ①学年(1)年 ②出身国・地域(ベトナム、国籍:ベトナム) ③母語(ベトナム語=家庭内言語)
- ④来日時の年齢 (15)歳 ⑤滞日歴 10月
- ⑥日本の学校での学習歴 中学校10か月(取り出しの日本語指導週2時間、地域支援教室に週1回)
- ⑦日本語のレベル
会話の力:日常的な場面で、ゆっくりはっきり話される会話であれば理解できる。単語をつなげて伝えたいことを言うことができる。
読み書きの力:日常生活でよく使われる語彙・表現で書かれた文を理解することができる。出来事や気持ちを書く短い日記等は書くことができる。
- ⑧その他 将来も日本で生活する予定。エンジニアになりたいという希望をもつ。

2 年間指導計画

- 目標: ①日本語での日常的なコミュニケーションの力を高め、周囲と関係を築いて学級・部活動・委員会等の活動に参加することができる。
- ②支援を受けながら社会科や保健の学習に参加し、関連する内容を調べたり多様な表現方法で発表したりすることができる。
- ③自身の出身地域や家族の言語文化について交流活動を通して捉え直し、自身の将来像を具体的にイメージし進路を考えることができる。

1年時の指導内容

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日本語指導	日本語A 日本語B	高等学校の生活、学習・生活・部活 初級文法・学校生活関連の語			・学校行事、生徒会組織 初級文法後半・社会生活関連の語			・趣味・関心、余暇の過ごし方 ・中級文法・進路に関わる語			・SNSの利用 ・中級文法 教科学習のための語		
	日本語C	・自己紹介を書く。 ・生徒会からの情報を理解する。			・自分の成長や他者との交流について記録する。			・自分の興味、関心のあるテーマについて調べ、発表する。			・進路や履修選択に関する手引きを読む。		
教科の取り出し指導	社会科「公共」	単元 青年期			単元 国際社会			単元 職業と社会参加			単元 現代の経済社会		
	保健体育科「保健」	単元 健康の捉え方			単元 喫煙、飲酒、薬物			単元 心の健康とストレス			単元 現代の感染症		
キャリア教育・多文化教育活動等		自分×学校生活 ・部活、委員会活動に参加する。 ・自分のことを話す。 <その他の例> ・高校でやりたいことを考える。			他者×学校の外へ ・学校行事を通してクラスメイトと交流を深める。 <その他の例> ・校外のイベントに参加する。			自分×進路 ・進路をふまえ選択科目を決める。 <その他の例> ・自分の興味関心について考える。 ・卒業生の体験談を聞く。			進級へ向けて ・入学後の生活や意識の変化を考える。 <その他の例> ・後輩に向けて、多言語版 高校生活の手引きを作成する。		



3 日本語指導計画 学習目標の設定と指導内容

『高等学校の日本語指導・学習支援のための
ガイドライン』p.22～

<日本語教育の3つの課題>

- 1) 学校・社会生活への適応とコミュニケーションのための日本語の力の育成
- 2) 学習に参加し思考するための日本語の力の育成
- 3) 自己実現とアイデンティティの形成を支える日本語の力の育成

	全体の目標	3側面の日本語の目標		
		生活適応とコミュニケーションのための日本語	学習に参加し思考するための日本語	自己実現とアイデンティティ形成を支える日本語
3年(修了時)				
2年				
1年				

例 日本語の学習目標

- コミュニケーション、学習参加、自己実現のための日本語の目標
- 各学年の習得・発達をイメージして目標を構造化

<1年時の3側面の目標の例>

生活適応とコミュニケーションのための日本語	趣味や嗜好、身近な出来事について社交的なやりとりができ、わからないことや困った場合には、日本語で質問や要求したり、支援の依頼をしたりして問題解決のために行動することができる。
学習参加し思考するための日本語	教科の用語について母語で調べたり、教員や支援者によるやさしい日本語での説明を受け、学習経験のある教科については日本語で理解し、質問をしたり質問に答えたりすることができる。学習経験のない教科については母語での支援を得て理解したことを、日本語に結び付けて学ぶことができる。
自己実現とアイデンティティ形成を支える日本語	自身の文化や行動様式と日本のそれとの違いについて、日本語の学習や友人との交流を通して学び、感じた違和感や疑問を伝えるとともに相互が理解できるように行動することができる。

<日本語の4タイプのプログラム>

目標 → 指導内容・方法の決定 → プログラム化・・・4タイプを提案
複数のプログラムの配置により日本語指導計画を作成

プログラムA 「生活のための日本語」

来日後の日本での学校・社会生活を送るために必要な基本的な日本語の語彙・表現を学ぶプログラム。日本語を使って困難や問題を解決するために行動できるようになることを目標とする。

プログラムB 「日本語基礎」

日本語の基礎的な構造・意味・機能を理解し、生徒の生活場面や学習場面で運用できるようになることをねらいとする。日本語基礎は日本語の学習経験がない生徒を対象とし、順にⅠ→Ⅱ→Ⅲと積み上げて学ぶように構成されている。

プログラムC 「技能別日本語」

まとまりのある内容の文章・談話を聞いたり、話したりする力、そして、読んだり書いたりする力、を高めるプログラム。タスク(課題)を設定し、そのタスクを遂行するプロセスで、学習した日本語の基礎的な構造・意味・機能に関する知識を活性化し運用することを促す。

プログラムD 「日本語プロジェクト」

外国人生徒等が共生社会の一員として自己を実現し、よりよい社会をつくるために、実際に問題・課題を解決する活動(プロジェクト)を通して、思考し、判断し、表現するためのことばの力を高めることをねらいとする。

プログラムAの例

例1) インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染予防のために「マスク、手洗い、うがい、感染、予防、ワクチン」等の語を学び、予防ポスターを見て確認したり、行動したりする。

例 2) スマホに関し、契約に関する情報を得て、適正に使用できるように「料金、契約、個人情報、セキュリティ」という語と、ショップで必要な「教えてください」、「考えます」という表現を学び、シミュレーションをする。

例 3) 生理の時に保健室で痛みや生理用品の不足を伝えられるように、「生理、生理痛、ナプキン」と、「お腹が痛いです」「～ください」という表現を学び、実際に保健室で先生とやり取りする。

ガイドライン プログラムA学習指導案 (p.136)

プログラムBの例

例1)所有、所属を表す助詞「の」に関し、「N(名詞)のN(名詞)」という形式について学び、「わたしのかぞく」「忘れ物」をトピックにした会話で運用する練習をする。

ガイドライン プログラムB 学習指導案 (p.138)

例2)要求を表す文型「N(名詞)がほしいです」について、寒くて防寒具が必要な場面を設定して意味と用法を知り、使っている道具が壊れた場面や誕生日に欲しいものについて会話する。

ガイドライン プログラムB 学習指導案 (p.141)

◇ガイドライン 日本語指導事例1 集住地域県立全日制高等学校(p.65)

プログラムCの例

例 1)「読む」活動として

履歴書のフォーマットから履歴書の項目を読み取り、志望動機の例から、志望理由を読み取り、動機として何を書けばよいのか、また、動機を書くときに用いる語彙・表現を知る。

例 2)「書く」活動として

自分が就職したい仕事や会社について話し合ったのち、上の「読む」活動で学んだ構成・表現を利用して志望動機を300字以内で書く。授業時間外に、進路指導の先生からコメントをもらい、よりよいものに書き換える。

ガイドライン プログラムC学習指導案(p.156)

◇ガイドライン 日本語指導 事例2 首都圏 県立工業高等学校(p.66)

◇ガイドライン 日本語指導 実践例1 ME-netと県教委・高等学校の協働(p.68)

プログラムDの例

例1)プロジェクト テーマ「キャリアA—流通の仕事、職種・職業キャリア」

コンビニのおにぎりの原料から販売までのサプライチェーンに関して調べ、「生産者」「加工業者」「小売業者」「消費者」「流通」などの語彙を知る。

サプライチェーンに関わる仕事や関連のある職業について調べたり、学校の教職員や先輩など身近な人にインタビューをしたりして、それぞれの仕事の社会的な役割や意義について考えたことをまとめて発表する。

◇ガイドライン プログラムD 学習指導案(p.161)



4 生徒のタイプ別 日本語指導

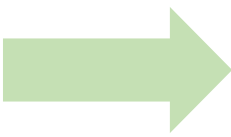

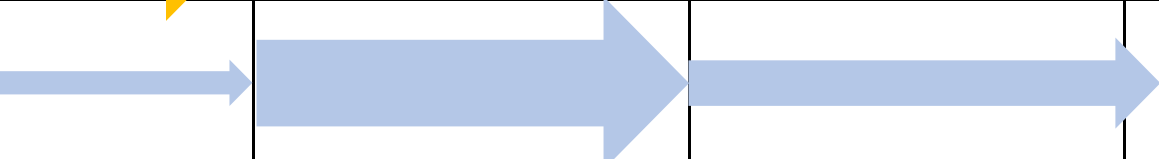

『高等学校の日本語指導・学習支援のための
ガイドライン』p.25～

<目標に基づく日本語指導計画>

－日本語プログラムの組み合わせ－

<タイプAの生徒の場合>




滞日期間が短く、日本語学習経験がほとんどない生徒を対象にイメージしたものです。
学年相応の母語の力や思考力などがあり、言語を分析的に捉えることや、自分で学習する力があることを想定しています。

	1年	2年	3年	4年
プログラムA「生活のための日本語」				
プログラムB「日本語基礎」				
プログラムC「技能別日本語」				
プログラムD「日本語プロジェクト」				

<タイプBの生徒の場合>


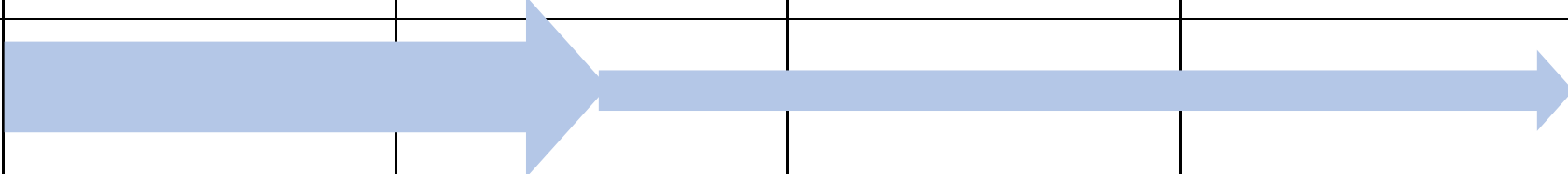
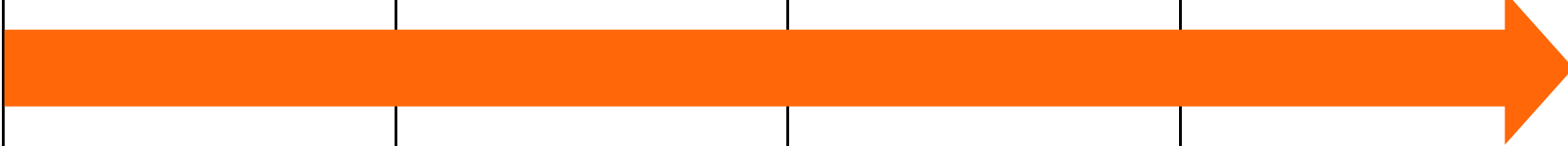
学習参加のための日本語の力として日本語の各技能の発達と、その力を実際の問題解決などで運用する力を育むイメージです。

日本語の基礎的な力が不十分であれば、プログラムBを手厚くする必要があります。


	1年	2年	3年	4年
プログラムA「生活のための日本語」				
プログラムB「日本語基礎」				
プログラムC「技能別日本語」				
プログラムD「日本語プロジェクト」				

<タイプCの生徒の場合>

学習に参加するための日本語の技能を改めて強化し、社会において自己実現するために必要な問題解決のための日本語の力を高めることを継続的に実施するイメージです。

	1年	2年	3年	4年
プログラムA「生活のための日本語」				
プログラムB「日本語基礎」				
プログラムC「技能別日本語」				
プログラムD「日本語プロジェクト」				

日本語プログラムA～Dを組み合わせ、日本語の指導計画を立てる
詳しくは 第1回対面研修(7月27日午後)に



『高等学校の 日本語指導・学習支援のための ガイドライン』

https://www2.u-gakugei.ac.jp/~knihongo/feature/upload/koko_nihongo_guideline.pdf

第3部 実践例・事例・声

- 1 外国人生徒等のための教育課程の編成例
- 2 日本語指導の実践例
- 3 教科学習支援の実践例
- 4 キャリア教育・支援の実践例・事例
- 5 多文化共生教育の実践例・事例
- 6 多文化を生きる元高校生の声

第4部 日本語プログラムA～D